

目指す学校像	夢と希望をもち、自らの力を発揮し、共に生きる子どもを育てる
--------	-------------------------------

重点目標	1 学びの連続性を意図した一貫性のある教育活動の実施と個別最適な学びの実現 2 安心・安全な教育環境の整備 3 学校・家庭・地域・関係機関等との連携・協働 4 さいたま市の特別支援教育を推進する学校としての特別支援学校のセンター的機能の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ・児童生徒一人ひとりの実態に応じた個別の指導計画の作成は概ねできた。 ・各授業等において ICT 機器の活用は進んできている。 ・学部の枠を超え、授業研究、協議を行い、学びの連続性や個別最適な学びの実現に向けての授業改善に努めている。 <課題> ・指導と評価の一体化については改善が必要などところもある。 ・活動ありきの授業になっているところがまだある。 ・各教科の資質・能力を育むための授業づくりをしていく必要がある。	・学びの連続性を意図した教育課程の編成と実施 ・個別最適な学びの実現	①教育課程検討委員会を年間9回程度設定し、適切な教育課程を編成するための諸課題について検討する。 ②学部間の連携を意識した一貫性のある教育課程、学びの連続性を意図した教育課程を編成し、学部の枠を超えて授業を参観し協議できる機会をつくる。	①学校自己評価に係る教職員アンケート、保護者アンケートにおいて、それぞれ関連項目肯定的評価90%以上となったか。 ②学部を超えた授業研究を実施し、研究協議を行い、12年間の学びの系統性についての共通認識をもつことができたか。					
2	<現状> ・医療的ケアに関わる職員の情報共有の機会を定期的にもつとともに、様々な案件について、医療的ケア委員会で話題提供し、検討することができた。 ・医療的ケア委員会を年間11回実施し、それぞれの立場から指導、助言をいただくことができていた。 ・ヒヤリハット事案を全体で共有することができていた。 <課題> ・医療的ケアを必要とする児童生徒の増加に伴い、必要な支援も異なり、その対応を検討するケースが増えている。 ・事案の共有だけでなく、全教職員が自分事として、危機意識の向上に努める必要がある。	・医療的ケア安全実施の維持向上 ・危機管理意識の向上	①医療的ケア委員会を年11回実施し、主治医、指導医、保護者、看護師、学校、教育委員会の連携体制を充実できるようにする。 ②児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、日ごろから、教員、看護師等が情報共有をする機会をもち、医療的ケアの実施に関する課題を出し合いながら本校の医療的ケア手引きの見直しを行う。	①学校自己評価に係る教職員アンケート、保護者アンケートにおいて、それぞれ関連項目肯定的評価90%以上となったか。 ②より安全な医療的ケア実施に向け、本校の医療的ケア手引きの見直し、修正を行うことができたか。					
3	<現状> ・年間3回の学校運営協議会を開催し、少しずつ連携を深めることができてきた。 ・交流および共同学習は、連絡調整を密にしながら実施することができた。 <課題> ・「本校のことを知ってもらう」「本校が地域の身近な存在」となるよう教育活動等の情報発信については更なる充実を目指す必要がある。 ・センター的機能の一つである教育相談対応については、今年度も半数程度の教員が関わることができたが、巡回相談等については8名程度である。 ・地域学校協働活動を更に進めていきたい。	・学校運営協議会の開催と教育活動の情報発信 ・共生社会の形成に向けた取組の推進	①学校運営協議会における委員を選定し、教育、福祉、医療、進路等の本校の課題を踏まえた熟議を行う。 ②学校の教育活動や児童生徒の学習の様子等の情報発信を HP やメール等を活用し適切に行うとともに、実際に関わる機会や場の設定を行う。	①学校運営協議会を年3回開催し、本校の学校運営について意見交換することができたか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケート、保護者アンケートにおいて、関連項目肯定的A評価50%以上となったか。 ③計画した交流及び共同学習を実施することができたか。 ④特別支援学校のセンター的機能を発揮して、市内小中学校への支援を行うことができたか。 ⑤地域学校協働活動を行い、更に広げるための検討ができたか。					
4	<現状> ・校内研修、市や県の研究会等に参加し、授業改善等に生かせるよう努めている。 ・自らのキャリアを振り返ることで、研修意欲が高まり、専門性の向上につながっている者もいる。 <課題> ・特別支援教育、肢体不自由教育に関する知識、経験、児童生徒の実態の多様化などに伴い、教職員の更なる専門性の向上が必要不可欠である。	・教職員の専門性向上	①職員の当初面談時等において、キャリア振り返りシートを用いて教職員一人ひとりが把握した自らのキャリアを踏まえ受講奨励を行う。 ②(肢体不自由教育を含む) 特別支援教育全般、特別支援学校のセンター的機能等に係る校内研修等を計画的に実施する。	①教職員一人ひとりが、自らを振り返り課題意識をもって研修に取り組むことができたか。 ②半数以上の教員が、特別支援学校のセンター的機能に係る実践に関わることができたか。					

目指す学校像	夢と希望をもち、自らの力を発揮し、共に生きる子どもを育てる
--------	-------------------------------

重点目標	1 学びの連続性を意図した一貫性のある教育活動の実施と個別最適な学びの実現 2 安心・安全な教育環境の整備 3 学校・家庭・地域・関係機関等との連携・協働 4 さいたま市の特別支援教育を推進する学校としての特別支援学校のセンター的機能の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和6年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○児童生徒一人ひとりの実態に応じた個別の指導計画の作成はできたが、中心的課題の明確化など改善が必要などところもある。 ○学部の枠を超え、授業研究、協議を行い、学びの連続性や個別最適な学びの実現に向けての授業改善が少しずつ進んできている。 ○施設見学、施設体験、実習見学など高等部の産業現場等実習だけでなくその発達段階に応じたキャリア教育を行うことができた。 <課題> ○「個別最適な学び」の実現に向け、個に応じたICTの利活用等について研究の必要がある。 ○12年間の系統性を意識し、各学部の指導内容の明確化と学びの連続性を意図した授業づくりを更に研究していく必要がある。	・児童生徒一人ひとりの障害の状態等に応じた指導・支援の充実「個別最適な学び」の実現  ・自立や社会参加を目指した教育課程の編成と実施	①児童生徒一人ひとりに応じた適切な個別の指導計画を作成し、評価する。 ②ICT機器を積極的に活用し、個々の発達段階等に合わせ、一人ひとりの思いや可能性を引き出す指導・支援の充実及び工夫改善を行う。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連項目肯定的評価90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連項目肯定的評価90%以上となったか。	・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価90%以上(91.6%) 保護者アンケート90%以上(94.1%) ・児童生徒一人ひとりの実態に応じた個別の指導計画の作成はできたが、情報共有、評価など改善が必要などところもある。 ・各授業等においてICT機器の使用はできたが、意思表示のツールとしての活用など、個に応じた利活用についてはまだ十分とはいえない。	A	・「個別最適な学び」の実現、個別の指導計画の作成 →作成にあたり、十分な引継ぎ、広い視野での子どもの捉え、丁寧な実態把握を行うことでの課題の明確化。 →様式変更の検討。 ・ICT機器の活用 →利活用事例の蓄積、児童生徒の情報共有システムの確立。	・課題に対して着実に取り組んでいることがうかがえる。
2	<現状> ○医療的ケアに関わる職員の情報共有の機会を定期的にもつことはできたが協働というにはまだ不十分である。 ○医療的ケア委員会を年間11回実施することができ、それぞれの立場から指導、助言をいただくことができた。 ○医療的ケアに関する物品の取扱い等において再発防止に努めるべき案件があった。 <課題> ○引き続き校内の医療的ケア体制の整備、更なる改善が必要である。 ○小さな気になることでもオープンにし、共有できるようにする必要がある。	・安全な医療的ケアの実施  ・リスクの未然防止	①日ごろから、教員、看護師等が情報共有をする機会をもち、医療的ケアの実施におけるそれぞれの役割を明確にし、連携して実施できるようにする。 ②医療的ケア委員会を実施し(年11回程度)主治医、指導医、保護者、看護師、学校、教育委員会の連携体制を充実できるようにする。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連項目肯定的評価80%以上となったか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連項目肯定的評価80%以上となったか。	・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価80%以上(89.7%) 保護者アンケート80%以上(88.4%) ・医療的ケアに関わる職員の情報共有の機会を定期的にもつことはできた。 ・医療的ケア委員会を年間11回実施することができ、それぞれの立場から指導、助言をいただくことができた。 ・様々な案件について、医療的ケア委員会で話題提供し、検討することができた。	B	・関係者全ての認識のずれのない、安全でスムーズな医療的ケアの開始、実施。 →役割分担の明確化、関係者の十分なコミュニケーションによる密な情報連携。	・医療的な面で、マンパワー不足の懸念がある。 ・災害時の対応、対策を更に検討していく必要がある。
3	<現状> ○年間3回の学校運営協議会を開催できた。 ○教育活動等の情報発信については、改善の余地がある。 ○交流および共同学習はオンラインでつなぐなどの工夫をしながら実施することができたが、地域学校協働活動については積極的な取組につなげることができなかった。 <課題> ○本校のことをまずは「知ってもらう」ことが必要である。 ○直接的な交流や地域学校協働活動の充実が求められている。	・学校運営協議会の見直しと教育活動の情報発信  ・交流及び共同学習の推進と地域との連携	①学校運営協議会における委員を選定し、教育、福祉、医療、進路等の課題を踏まえた熟議を行う。 ②学校の教育活動や児童生徒の学習の様子を情報発信を工夫しながら行う。実際に関わる機会や場の設定を行う。	①学校自己評価に係る教職員アンケートの関係項目肯定的評価80%以上となったか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連項目肯定的評価80%以上となったか。	・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価80%以上(96.6%) 保護者アンケート80%以上(100%) ・年間3回の学校運営協議会を開催し、少しずつ連携を深めることができてきている。 ・教育活動等の情報発信については更なる充実を目指す。 ・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価80%以上(99.1%) 保護者アンケート80%以上(98.4%) ・交流および共同学習は、連絡調整を密にしながら実施することができた。地域学校協働活動は積極的な取組を更に進めていく。	A	・本校の学校運営協議会の見直しと学校の教育活動等の更なる情報発信。 →「さくら草特別支援学校」に慣れ親しんでいただくため、地域の方々に気軽に学校にいらしていただくことができるような場所や機会の設定とHPなどの充実。 ・他校との交流及び共同学習の充実。 →直接的な交流の積極的、計画的な実施。 ・地域学校協働活動の取組の充実。 →直接的な関わりが進められるような環境整備。	・地域の学校として、交流及び共同学習は今後も継続して進めていけるとよい。 ・学校での子どもたちの日常を知ることで、学校生活に必要な情報を医療の面からも把握し、連携していけるとよい。
4	<現状> ○市の研究会についてはほぼ全員の教員が研修に参加し、他校の教員と研究協議を行い、日ごろの授業改善につなげることができている。 ○センター的機能の教育相談対応については、半数程度の教員が関わることができた。 ○特別支援教育の専門性が求められる職場であるが、初めて携わる教員も多い。 <課題> ○教員の特別支援教育に係る専門性を向上させ、特別支援学校のセンター的機能を充実し、さいたま市の特別支援教育を推進していく責務を果たす必要がある。	・教員の専門性向上と特別支援学校のセンター的機能の充実	①校内研修だけでなく、市、県の教育研究会への参加等、研修の場を広げる。 ②特別支援学校のセンター的機能等に係る情報提供や校内研修を実施する。 ③市内の小中学校支援(特別支援学校のセンター的機能)において、組織的、計画的に対応する。 ④職員の当初面談時等において、教職員一人ひとりが把握した自らのキャリアを踏まえ受講奨励を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連項目肯定的評価90%以上となったか。 ②半数以上の教員が、特別支援学校のセンター的機能に係る実践に関わることができたか。	・学校自己評価に係る教員アンケート関連項目肯定的評価90%以上(94.0%) ・校内研修、市や県の研究会等に参加し、授業改善等に生かせるよう努めている。 ・センター的機能の一つである教育相談対応については、今年度も半数程度の教員が関わることができたが、巡回相談等については10名程度である。 ・自らのキャリアを振り返ることで、研修意欲が高まり、専門性の向上につながっている者もいる。	B	・特別支援学校のセンター的機能に対する職員の意識の向上と組織的な対応。 →特別支援学校が担うべきセンター的機能についての理解を深められるような研修の実施と更に多くの教員が関わることができるよう、校内体制の整備。 →年間の見直しをもった校内研修計画の立案と実施。	・講師の派遣依頼など、特別支援学校のセンター的機能を活用していきたい。 ・教職員の専門的スキルの向上に対する研修の必要性を感じる。